



獅子舞

安代原獅子舞は、万延元年(1860)頃、富山県氷見市論田、熊無へ漆搔きに出向き、習得したもので、門前町の各地区、輪島市三井町洲衛地区等へ伝授されています。門前町は獅子舞が盛んな町で、各地区の春、夏、秋祭りで演じられ、胴体の蚊帳に獅子の頭持ちを含めて4人の演者が入ります。獅子に対する者を天狗と言い、地区によって違いはあるものの、天狗は面、シャンガ、烏帽子を着け、手には金属製、木製房つき棒、鉞、刀等を用います。囃子方は太鼓、鉦、笛を用います。天狗と獅子、そして囃子方が一体となって勇壮に舞い、演目は「八ツ節」「七五三」「京振り」「獅子殺し」等、ストーリー性のあるものが見所です。